

STEP!



宇美町立宇美南中学校
第2学年通信 第20号
文責 大田・秋山
令和3年 9月9日(木) 発行

総合的な学習の時間

『プロフェッショナルに聞く』Part 1 14歳の君たちに送るメッセージ

今年度の総合的な学習の時間は「プロフェッショナルに学ぶ」と題して、さまざまな職業に就労されている方々から「学び」を得る学習活動に取り組んでいます。

その一環で、「プロフェッショナルに聞く」活動を9月8日(火)～10日(金)の3日間で行いました。9月8日(水)は、テレビタレントの「吉川貴司さん」、(株)シティーアートプランニングのフォトグラファー肥塚昭仁さんに来ていただいて、感染症対策をとりながら、1コマずつ2コマの講話を聞かせていただきました。20号は吉川さんの、21号は肥塚さんの特集をします。

吉川貴司さんは、現在TNCで放送中の情報番組「もち浜ストア」の「もちスポ」(月～金18:40頃～18:50)というスポーツコーナーを担当するスポーツキャスターです。吉川さんは中学生(古賀北中)の頃、生徒会長でバレーボール部のキャプテンを務めるなど大活躍していました。バレー部では校長先生と大田先生の教え子です。一生懸命にみなさんのために講話の中で話して下さった内容をふり返ってみましょう。

タレントになりたいと思えば、誰でもなることができますが、なってからどれだけ他の人と差を付ける努力をしていくかで、テレビ局の方や出演者の方等から信頼を得て、仕事をもらえるかどうかが決まってくるということでした。そのために吉川さんがこだわってきたことは・・・



1つめは、

どんな仕事でもいただいた仕事は続けていくこと。



タレントになっての19年間、一度も病気などで体調が悪くても、発熱しても(これはコロナ禍以前の話です)仕事に穴を空けなかった。その理由は、自分が休むと他の人に仕事をもっていかれるのではないかと、という恐怖心との戦いだった。でも、続けていくことでテレビ局の方から信頼していただけるようになり、仕事をいただいてタレント業を続けることができています。とにかく健康管理にはこだわっている。

2つめは、

インタビューする自分が主役ではなく、インタビューされる相手が主役になるようにすること。

特に吉川さんの仕事はいろいろな職業の人たち(農家さん、漁師さん、会社勤めの方、スポーツ選手等々...)にインタビューすることが多い。その中でもテレビの仕事をしていない一般の方にインタビューする際は、慣れていないので、本番のカメラが回り始めるとすごくかたくなってその人の良さがなかなかカメラに収まらない。だから収録の合間の休憩時間には休憩時をとらず、インタビューする人とできるだけ趣味の話や世間話をして、その人とコミュニケーションを取り、リラックスして本音で話していただけるようにしている。テレビでは

放映されない(人が見ていない)部分で、相手の方のために自分がどれだけコミュニケーションを取り、信頼してもらい、その人の良さをたくさん引き出せるインタビューにできるのか、その良さをどう視聴者に伝えていくのか、ということを常に意識してこだわっている。

3つめは、

視聴者が何を求めているのかを常に考えて、関心をもっていただけれるようにすること。



今は「ももスポ」のコーナーで、野球選手にインタビューすることが多いが、野球の専門的なことばかりを聞くと、野球に関心がない人には全く面白くないので、その選手の「人となり」に関する質問をするようにしている。例えば、どんなペットを飼っていて、どんなお世話をしているのかなどを視聴者に知ってもらうことで、「犬飼ってるんだ。」「ちゃんとお世話してるんだ。」などと親近感が湧き、選手を身近に感じてもらえるようにしている。「どんな選手なのか、

今度野球見てみようかな?」と思ってもらえたら、これほど嬉しいことはない。そうやって、いろんな形でファンが増えていくようにこだわっている。インタビューの相手から、「吉川さんがインタビュワーで良かった。本音でしゃべれた。」と言ってもらうのも嬉しいが、それよりも視聴者から「あの選手面白かったね。」「また次も見たい」「私も見ようと思った」と言ってもらえる方が最高に嬉しい。

4つめは、

あいさつは、相手より先にすること。

社会に出るとあいさつは最低限度必要なもの。自分から先に、相手より早くあいさつするようにしている。先に言われて嫌な思いをする人はいない。初対面の人には特に「おはようございます。本日はよろしくお願ひします。」と丁寧に言うようにしている。

→これは、やはり、俵先生から教わった「初対面の印象は6秒で決まる」という教えと共通するものがありますね。



5つめは、

自分の当たり前は相手の当たり前ではない。だからこそ相手を知る。

だから人間関係づくりとコミュニケーション能力が大切。

自分が思っていることを相手がすべて理解してくれたり、共感してくれたりするわけではない。自分の当たり前は相手の当たり前ではない。ある人へのインタビューがうまくいったからと言って、別の人にその時のようなインタビューをしても、相手の良さを引き出せないこともある。だから、初対面でも、どんなふうに自分のことばを受け取ってくれる人なのかを知り、相手がどんな気持ちになるのかを感じたり考えたりすることが大切。何より人間関係づくりを重要視している。表面的なところでその人のことを判断せずに、裏側まで知る努力をして、その人に対応し良さを



引き出して、わかりやすく視聴者に情報を届けていくこと。

吉川さんのプロとしてのこだわり。どうでしたか。中学生のみなさんにとっても大変役に立つ内容だったと思います。とにかく「相手のために」「視聴者のために」というプロ意識を感じました。人間関係づくりを大切に、信頼してもらい、自分の良さをも生かす吉川さんのプロ意識。たくさんの学びがありました。みなさんは、自分の生き方にどの学びを生かしていきますか?まずは、すぐにできることとして、南中あいさつ4箇条にもある『「自分から先に」のあいさつ』にこだわってみませんか?人間関係づくりは、まずは、あいさつから始まりますから。